

「今を重視」で投資する人とならない人

価値観＋性格特性で探る「投資家への壁」

- ・本レポートは『資産形成白書2026』の補足・深掘り・アップデートを主な目的としています。
- ・本レポート単独でもご利用できますが、『[資産形成白書2026](#)』も合わせてご覧いただけると幸いです。

2026年7月15日

「今を重視」する価値観で投資を始める人のパーソナリティ（性格特性）とは

- 本レポートでは、大和アセットマネジメント資産運用普及センターが実施したアンケート（2025年9月実施）*¹をもとに、『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の違いを分析します。特に、現在のお金の使い方について「今を重視」する価値観と「将来を重視」する価値観に着目し、それぞれの価値観が投資に対する姿勢にどのような影響を与えているかを考察します。
- 一般的に資産形成を行うには、「将来を重視」する価値観が馴染みやすいと考えられます。一方で、実際には「今を重視」しながら投資を始めている人も存在します。同じ「今を重視」する価値観でも、『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』では、どのようなパーソナリティの違いがあるのでしょうか。
- なお本レポートは、『資産形成白書2026』の第1章「アンケート調査から読み解く『投資家への壁』」*²の続編としてもお読みいただけます。

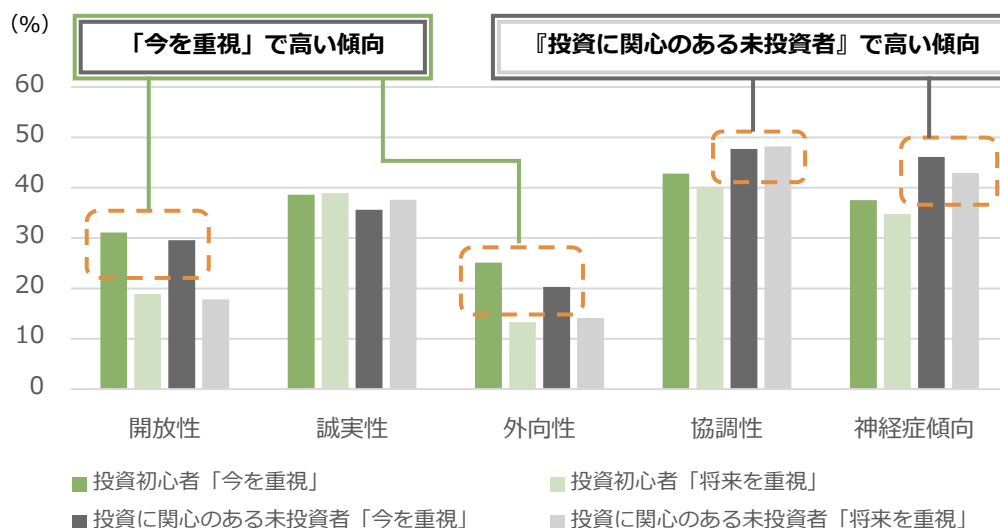
*¹：『[投資家への壁](#)』を探索1万人アンケート

*²：『[資産形成白書2026](#)』の第1章では、『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』の違いをパーソナリティ（Big Five）の観点から分析しました。『投資に関心のある未投資者』は『投資初心者』と比べて、協調性と神経症傾向が高い傾向にあることが確認できました。

4つの集団別にみるBig Fiveの傾向

- パーソナリティは心理学において「性格」と訳されることが多い用語で、パーソナリティを測定する代表的な手法にBig Fiveというものがあります。Big Fiveは人間が持つ様々な性格を、開放性、誠実性、外向性、協調性、神経症傾向の5つの因子で説明します。
- ここでは、以下の4つの集団についてパーソナリティ（Big Five）の傾向を比較します。
 - 『投資初心者』かつ「今を重視」
 - 『投資初心者』かつ「将来を重視」
 - 『投資に関心のある未投資者』かつ「今を重視」
 - 『投資に関心のある未投資者』かつ「将来を重視」

4つの集団別にみたBig Five各因子の「高い」割合



※ 投資初心者「今を重視」：n=892、投資初心者「将来を重視」：n=1,652、投資に関心のある未投資者「今を重視」：n=2,013、投資に関心のある未投資者「将来を重視」：n=2,637

※ 3点台を「どちらともいえない=中間」として位置づけ、4-5点台を「高い」、1-2点台を「低い」と定義

(出所) 大和アセットマネジメント「『投資家への壁』を探る1万人アンケート」

- 誠実性については、4つの集団の差が比較的小さい一方、協調性と神経症傾向は、『投資に関心のある未投資者』で高い傾向が確認できます。これは、『資産形成白書2026』の第1章で示した「投資家への壁」*³です。
- また開放性と外向性は、「将来を重視」する層よりも「今を重視」する層で高い傾向がみられます。つまり、「今を重視」する価値観は、単に将来への関心が低いのではなく、新しい経験や活動への関心の高さと結びついていることが示唆されます。

*³：まわりの状況を思いやれるような協調性が高い人、先のことを悪い方も含めて想像し心理的なストレスを抱えやすいような神経症傾向が高い人は、投資への第一歩を踏み出しにくくなっていると推察されます。（『資産形成白書2026』, p.12）

投資経験と価値観の組み合わせ別の解釈

- 上記の結果を踏まえ、4つの集団を投資経験の有無と「今を重視／将来を重視」の価値観で整理すると、「投資に向かいやすい／向かいにくい理由」について以下のように解釈できそうです。

4つの集団における「投資に向かいやすい／向かいにくい理由」についての解釈

集団	協調性・神経症傾向	開放性・外向性	解釈
投資初心者 「今を重視」	 低い傾向	 高い傾向	協調性・神経症傾向が低いことから、投資開始の心理的な障壁は相対的に低く、開放性・外向性が高いことから、投資を新しい経験の一つとして捉え、比較的前向きに投資行動に移りやすいと考えられる。
投資初心者 「将来を重視」	 低い傾向	 低い傾向	協調性・神経症傾向が低いことから、投資開始の心理的な障壁は相対的に低く、開放性・外向性が低いことから、目先の経験や刺激よりも将来に対して意識が向かいやすく投資行動に移りやすいと考えられる。
投資に関心のある未投資者 「今を重視」	 高い傾向	 高い傾向	開放性・外向性が高いことから、投資を新しい経験の一つとして比較的前向きに捉えている一方、協調性・神経症傾向が高いことから、投資開始の心理的な障壁は相対的に高くなっていると考えられる。
投資に関心のある未投資者 「将来を重視」	 高い傾向	 低い傾向	開放性・外向性が低いことから、目先の経験や刺激よりも将来に対して意識が向きやすい一方、協調性・神経症傾向が高いことから、投資開始の心理的な障壁は相対的に高くなっていると考えられる。

※ 性格特性の「高い傾向」「低い傾向」とは、4つの集団で比較した場合の相対的な高低を表す

(出所) 大和アセットマネジメント

- 上記の表で特に注目したいのは、「今を重視」する層です。投資初心者の「今を重視」する層は、協調性・神経症傾向が低く、開放性・外向性が高い傾向にあります。投資開始への心理的障壁が相対的に低いことに加え、新しい経験への関心や積極性が、投資開始を後押ししている可能性があります。つまり、投資行動の動機付けが「将来のため」だけではなく「今、新しい経験をしたいから」にもなっていると考えられます。
- 一方、『投資に関心のある未投資者』の「今を重視」する層は、協調性・神経症傾向が高く、開放性・外向性も高い傾向にあります。心理的ストレスを抱えやすいからこそ、損失や失敗の可能性を避け、確実に楽しめるものへ現在のお金を使うことを重視している可能性があります。この層にとって投資は、「前向きに捉えられる新しい経験」ではあるものの、「失敗したら困る不確実な行動」として認識されやすいのではないのでしょうか。
- このように、同じ「今を重視」する価値観でも、『投資初心者』と『投資に関心のある未投資者』では「今を重視」の意味合いが異なっていると考えられます。

■ 「今を重視」する『投資に関心のある未投資者』へのアプローチ方法

- 以上を踏まえると、「今を重視」する『投資に関心のある未投資者』に対しては、投資を「将来や老後のために行うもの」として訴求するだけでは十分ではない可能性があります。この層には、将来不安の軽減に加えて、投資を始めることで「今」得られる前向きな変化をあわせて提示することが有効といえるのではないのでしょうか。

提示する「今」得られる前向きな変化の例

- お金や経済に関する知識が投資経験を通じて身につけやすくなる
- 家計を見直す機会が得られる
- 資産形成を始めたという安心感を得られる
- NISA制度の活用によって税制優遇を受けられる

(出所) 大和アセットマネジメント

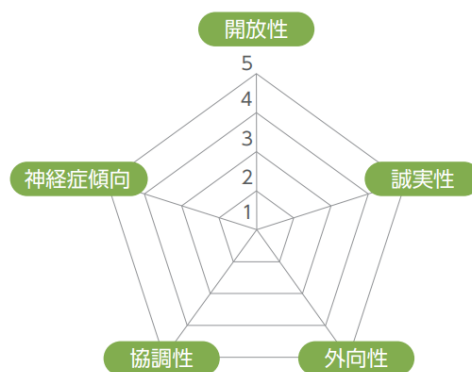
APPENDIX | アンケート調査で用いたBig Five Inventoryの設問と選択肢

	非常に あてはまる	やや あてはまる	どちらとも いえない	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
1. 新しいアイデアや経験に対して好奇心を持つ					
2. 芸術や音楽に強い関心がある					
3. 抽象的な考え方をするのが好きである					
4. 物事を計画的に進める方である					
5. 締め切りを守ることに強い責任感を持っている					
6. 整理整頓が得意である					
7. 人と話すことが好きである					
8. パーティーや集まりに積極的に参加する					
9. 初対面の人ともすぐに打ち解けられる					
10. 他人の気持ちに敏感に反応する					
11. 困っている人を見ると助けたい					
12. 対立を避け、円満な関係を築こうとする					
13. ストレスを感じやすい方である					
14. 小さなことで不安になりがちである					
15. 感情の浮き沈みが激しいと感じる					

* 非常にあてはまる…5点、ややあてはまる…4点、どちらともいえない…3点、あまりあてはまらない…2点、まったくあてはまらない…1点として、特性ごとに平均値を算出。3点台を「どちらともいえない=中間」として位置づけ、4-5点台を「高い」、1-2点台を「低い」と定義

	平均値
開放性	1. 新しいアイデアや経験に対して好奇心を持つ 2. 芸術や音楽に強い関心がある 3. 抽象的な考え方をするのが好きである
誠実性	4. 物事を計画的に進める方である 5. 締め切りを守ることに強い責任感を持っている 6. 整理整頓が得意である
外向性	7. 人と話すことが好きである 8. パーティーや集まりに積極的に参加する 9. 初対面の人ともすぐに打ち解けられる
協調性	10. 他人の気持ちに敏感に反応する 11. 困っている人を見ると助けたい 12. 対立を避け、円満な関係を築こうとする
神経症傾向	13. ストレスを感じやすい方である 14. 小さなことで不安になりがちである 15. 感情の浮き沈みが激しいと感じる

あなたのBig Fiveレーダーチャート



* Big Fiveの測定方法には、Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) の10項目で測定する方法や、Big Five Inventory-2 (BFI-2) の60項目で測定する方法など様々なものがある。BFI-2については、短縮した30項目 (BFI-2-S) や15項目 (BFI-2-XS) も存在する。本調査では「日本語版Big Five Inventory-2」のうち15項目で測定する短縮版で公開されている事例を参考に、回答者がスムーズに理解・回答ができるよう設問文を調整したものを使用した

(出所) 大和アセットマネジメント

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。